

ペーパークラフト

Sakuya 咲夜さん

組立説明書

用意するもの

接着剤

速乾ボンド

今まではコシボンドのG17を使っていましたが今回は同社のGクリヤーを使ってみました。速乾ボンドはちょっと特殊な接着剤なので、使用方法を読んでおきましょう。



切るもの

デザインナイフ

作者が使っているのは田宮模型の物。



ハサミ

有れば便利です。

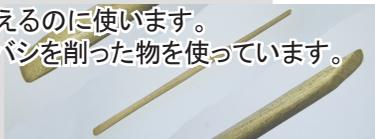
のり付けペラ

接着剤を塗るためのペラです。作者は普通のカッターナイフと小さいマイナスドライバーを使っています。金属製で平らな面が有る物が良いです。



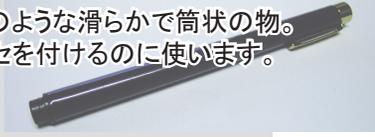
押えペラ

接着部を押えるのに使います。作者はワリバシを削った物を使っています。



その他

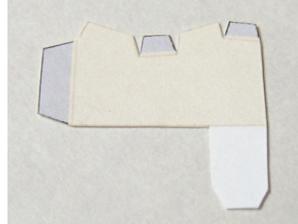
サインペンのような滑らかで筒状の物。紙に曲リグセを付けるのに使います。



エッジの立った金定規など。のりしろなどを折るのに使います。作者は15cmの金定規を使っています。

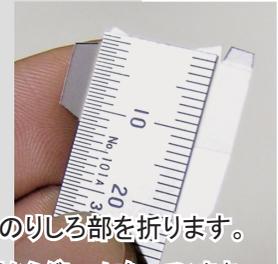


左の道具を使ったパーツ作成の例



濃い肌色の線に沿って、のりしろ部を折ります。

※ のりしろ部は、少し逃げた位置からグレーになっています。切る、折る、接着する場合は、地の色より少し濃い色線を参考にしてください。



曲面になるパーツなので、曲リグセをつけます。



下準備が出来た状態のパーツ。

のりしろのオス部、メス部の両方にノリを付けます。



ノリを少し乾かします。



接着部をギュッと押しつけます。

完成。

ちなみに作者が使用している紙は110kgのケント紙です。

説明書全体を通しての注意点

- ※ のり付けは、説明書の図などを参考に、その場で必要な部分だけにノリを付けていくようにしてください。
- ※ 基本的に、地の色より少し濃い色線は折線です。
- ※ 図中に出てくる太線は接着に関係無いために見落としがちな折線などです。また、パーツののりしろ内に太線が有る場合は、対応するのりしろにも太線が有りますので接着時の参考にしてください。
- ※ 実際に作り始める前に、展開図や写真を参考にしながら説明書を流して読んでみるのがオススメです。

印刷時の注意

※ 同梱のreadme.txt内の「注意点>Oプリンター」の項も参照してください。

表裏のデータは部品の座標的には真裏に位置するようになっていますが印刷時にある程度のズレが出るのは仕方ありません。多少のズレは吸収するように作ってはいますが、下記の事を試してみるとズレを減らせるかも知れません。

以下は一般的と思われる家庭用のプリンターでの方法です。

縦方向のズレ

縦方向のズレは給紙のタイミングの問題なので、可能ならば一枚ずつ手差しで給紙すれば問題有りません。

横方向のズレ

図1のようにモニターに映っている画像を印刷した場合、図2のように印刷されます。

同梱の展開図データには四隅にガイドを配置しているので図3のように印刷されていると思います。

この場合、プリンターの印刷開始位置(どんな大きさの紙をセットしても変わらない位置)が右端に有るため、図3のAの距離分内側に入った位置が、そのプリンターによる紙に対しての展開図の印刷開始位置です。

この時、AとBの長さが同じなら、そのまま図4、図5のように裏を印刷しても、横ズレは起きないものと考えて良いです。

AよりBが長かった場合は、紙のB側の側面をカットしてAとBの長さを揃えてから、プリンターの給紙口の用紙ガイドを調整した後に裏面を印刷してみてください。

※ カット時には、紙のA側とB側の平行を保つように一律の幅でカットしてください。

AよりBが短い場合というのは基本的には無いと思われませんが、その場合は紙をB5サイズ(182×257mm)+数mmにカットした後に内側のガイドを基準にして上記の方法を試してみてください。

※ どちらの場合にも、プリンターの用紙ガイドを随時調整して紙がガタつかないように気を付けてください。

「展開図表」の画像イメージ

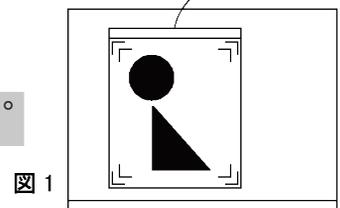


図 1

印刷開始位置

用紙ガイド

図 2

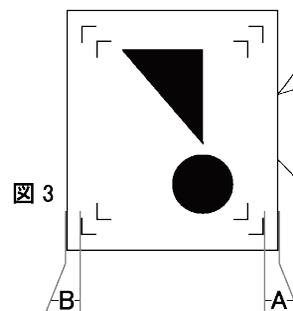


図 3

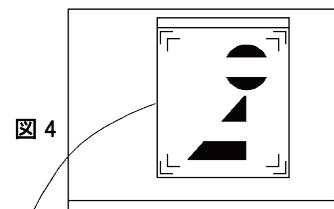


図 4

「展開図裏」の画像イメージ

裏返します

図 5